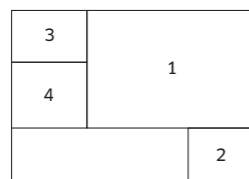


津軽海峡から「春」を追う

冠雪の蝦夷富士を臨み、 北の大地は緑に萌える

【写真1】北海道ニセコ町で撮影した尻別川の上流。日本各地に富士と呼ばれる山があり、これまでに沢山見てきたが、羊蹄山は特に富士山に似ている気がした。【写真2】青森県の世界自然遺産、白神山地を源流にする赤石川（あかしがわ）。川岸にニセアカシアが群生していて甘い香りが漂っていた。【写真3】青森県側のシンボル、津軽富士こと岩木山の裾野を流れる岩木川（いわきがわ）。あたりは見渡す限りのリンゴ畑で、白い花が風に揺れていた。【写真4】青森県五所川原市の金木川（かなぎがわ）で満開の桜を見つけた。金木には作家・太宰治の生家があり、斜陽館として観光名所になっている。



じられないものに魅了された同類は、いつの世にもいたのではないか。太古より続く海峡を超えたロマンに、先人と我が身を重ね合わせて想う。

まずは北海道側のシンボル、蝦夷富士こと羊蹄山（ようていざん）をめざしてニセコ町へ向かう。内浦湾は穏やかで、春の陽を浴び輝いている。山間部に入ると、遅い春に目を覚ました木々がいつせいに芽吹き始めていた。

ニセコは良質の雪で世界的に有名な街だ。市内は春スキーを楽しむ外国人客で賑わっている。しかし、肝心の羊蹄山には雲が懸かり姿を見ることができない。腰を据えて待つこと3日。やっとその雄姿が青空に浮かび上がった。残雪に覆われた羊蹄山は驚くほど富士山にそっくりだ。雪解け水を運ぶ尻別川とともに、雄大な北国の春をフィルムに収めた。

本州と北海道を分かち、日本海と太平洋をつなぐ津軽海峡。晴れた日には対岸が見え、はるか縄文の時代から行き来していた記録が残る。海を隔てたふたつの雪国を結ぶ夢は、青函連絡船、青函トンネルと叶えられ、ついに北海道新幹線が開業するに至った。この恩恵にあずかるべく、今年は津軽海峡周辺の川を訪ねてみることにした。

いざカメラを手に踏み込むと、青森側にも北海道側にも魅力的な川が多いことに気づく。川と呼ばれ、山に誘われ、どこまでも車を走らせたくなってしまう。初めて目にする風景、その土地のにおい。そこでしか感じられないものに魅了された同類は、いつの世にもいたのではないか。太古より続く海峡を超えたロマンに、先人と我が身を重ね合わせて想う。

